

令和3年10月4日

鈴木委員

私からは、交通計画1本で質問をさせていただこうと思います。

まず初めに、これ、読ませていただきました。私、素朴な疑問を3問、ちょっとぶつけてみたいと思います。1つは、計画の狙いの中に、かながわ交通計画は、2040年代の総合的なネットワークの編成を目指して、その方向性を問うんだと書いてある。2040年ってこれから20年後だよ。20年後にどんな社会になっているかと思っているのか。それがなかったら、これ、書けないですよ。誰も20年後なんて分からないし、10年ですら、こんな風になる時代に、20年後ってどういう社会になっているという前提で書かれているのか。

交通企画課長

気候変動などによりまして、大雨の頻発化など、それから新技術の発展がある程度進んだりするのが分かっておりますが、20年後の量的なものまでは分かっておりません。この中で、間違いなく大きな課題として捉えている中で、1つは、高齢化がございまして、今現在、約4分の1が高齢者、2040年には3分の1が高齢者となります。さらに、交通施策で一番大きい中では、運転者不足があります。こういったものは急には増えないだろうと。

となりますと、2040年、様々な課題ありますが、1つとしては、公共交通など、物流も含めてですけれども、運転者がいる中で、限られた人材の中で、より効率的に運行が行われているのではないかと。そのためには、AI、MaaSといったサービスが必要なのではないかと考えております。

もう1つは、現在でも空域の規制が進んでおります空の領域についても、どのぐらいの量かは分かっておりませんが、20年後には、空で荷物が運ばれたり、人が運ばれたりする時代が来るのではないかと。そういった2点について大きなことを考えております。

鈴木委員

今、課長の答弁は何を言っているか全然分からない。高齢化だと、AIだと。そうしたら、高齢者出す必要ないです。人の代わりにAIが動く、また、AI以外のものが何かできるかもしれない。人が高齢化になっていくと同時に、果たして、その人たちの心肺機能だって分からなくなっていく。変な話だけれども、よく私もクイズで出すんですけど、サザエさんの磯野波平さんは何歳でしょうかという、みんな60歳、70歳という人が多いが、54歳なんだよね。今は、そういうふうにとんどん若返ってきている。

そういう状況下の中において、この2040年という社会について、きちんと狙いを書いておかないと、この計画そのもの自体の在り方とは、抜本的に変わってくるだろう。鉄道だ、やれ公共機関だとかと言うけれども、本当にそれも、どのような形なるか分からない。そういうものの中で、やはり、私、狙いについては、もうちょっと丁寧に書かれたらいかがかと。

その中で、2つ目、2ページ目にある、先ほど先行会派からもかながわ都市マスタープランはあったよと。それに対してかながわの交通計画があるんだよ

と。かながわの交通計画をよりブレークダウンすると、かながわのみちづくり計画という図なんです。だけど、この中で、かながわのみちづくり計画は基本的に道だから、鉄道は書いていないですね。今、課長がおっしゃった、空だ、やれまた鉄道だというようなものは、どこに書くのですか。

私が言いたいことは、あなた方、平成19年につくった計画を見てみました。すると、例えば、60ページに、広域的な交通課題というのが書いてあって、この中の下に、これからの国際物流拠点の搬出入圏域を拡大するために、交通網の整備をしっかりとしなきゃいけないと書かれているわけだ。これが課題なんだよと。

私、もうこれ、そのとおりに当たっているし、皆さん方、そのとおりにやっていたらしているわけだ。例えば、それこそ圏央道、また、私もお世話になっている北西線、これからまた南線なんかもできますよね。そういうような計画が、あなた方の中に、ここに、どこも書かれていないんだ。要するに、この19年につくったものはどうなったんだという成果が、この中にないわけだ。

そうすると、この計画をつくったあなた方が、よく大好きで書くPDCAサイクルとか言うものがあります。いろいろなものをいっぱい出してくるよね、紙でもって。PDCAサイクルという観点からしたら、この計画は何をもってやる。道づくりはいいとしよう。それ以外は、何をもってPDCAサイクルという形でここで表すわけですか。

交通企画課長

今、冒頭言いましたみちづくり計画については、かながわ交通計画の子供の計画ですので書いてありますが、それ以外の鉄道といったものはどうするのかといったもの、実施計画になると思いますが、この計画は交通施策の基本的な方向を示して、交通施策としては、様々な関係者が共通認識の下で、それぞれに取組を進めていくといった必要がありますので、この計画には、例えば、鉄道をいつまでに造るといったものは含めておりません。

あわせて、そういった計画ですので、PDCAサイクルによる進行管理であったり、それから白書などを作成して、県民の方に取組状況といった部分をお見せしておりますが、作業としては、これまでの計画についての施策の状況などについて、市町村や庁内で確認作業を行っております。

鈴木委員

言っていることの半分、分からないけれども、要は、このところに書かれているものについては、みちづくりだけはそういうふうにやりますよ、でも、ほかに鉄道だって何だって、国が関わり、あなた方が関わり、市町村も関わっているということは、この図自体が成り立たない。

要するに、今ここであなた方が書いたこの図そのものが、こういうような形になっていて、下にいきなり線になって、かながわのみちづくり計画だけを、これ、本来、どこかの部分だけなんでしょう。この図、書き直しなさいよ。なぜなら、こういうふうになっていないですから。全部書かれているわけではない。まずは、そこのところを課長に1つ指摘しておくよ。

今、課長の中に話があったけれども、その後3ページ目、これだって、今、諸課題の中でもって計画の対象が書いてあるが、このものの動きの中の、公共

交通の中に航空と書いてある。また、その下に、個別交通等という中の物の動きという中には、もう、これ間違いなく40年になればドローンなんかは入ってくる。要するに輸送でも実証実験なんか、どんどん今、いろいろなところでやっていて、神奈川県だつてやっている。何でここに入らないんだと。

これも要するに、何かいきなり、AIとか自動運転とかMaasとか書いてあるけれども、3ページについて、図は書き直すべきだと思うが、いかがですか。

交通企画課長

例えば、ドローンで荷物を運ぶということになりますと、それはものの動き、貨物自動車等、これは、等に含まれるんですが、そういうところで読まざるを得ないのかと。例えば、ドローンが空飛ぶ車のようになった場合は、果たして、公共交通としての航空なのか、個別の交通として何になるのかは、そこまではまだ、空飛ぶ車については位置づけが明確になっておりません。

鈴木委員

だから、課長、狙いをきちんと書けよと言っているのですよ。40年後はどうなっているのか。それがなかったら、貴重な時間にあなたとここで討論したってしょうがないです。だから、それをきちっと書かないと、言っていることが整合性つかないし、県民が見るわけでしょう。今、私は、常任委員であなたとやり取りしているからこれでいいけれども、中身が全然分らないですよ。

もう1つは、私、これ見えていて驚いたのは、全体の3分の2はみんな資料だよ。最後の、今後の課題については本当ごく僅かしか書いていない。何でこんな前までこんないっぱい、読まなきゃいけないのですか。読まなきゃいけないなんて、書いたんですからということだけれども。だけど、私からすると、県民の方、時間がない中でどういうことをやるんだというようなことが、まず見えなければならぬ。そうであるならば、構成の在り方だつて考えたらどうですか。だつて、私も読んでいたら、ずっと出てくるのは参考資料だよ。

今、言ったけれども、高齢化になるのは分かりました。だけれども、そうじゃなくて、今の課題が何で、どのようにしてくれるのかということが計画の根本ではないですか。それを、どのようにしてくれるのかということについて、やはり私は、もっと立て方自体を、もう一度考えたらどうかと思いますが、いかがですか。

交通企画課長

精一杯、分かりやすい計画となるように努力したつもりですが、やはり、県民の皆様に分かりやすく、伝わりやすい計画にすることも大事なことでありますので、頂いた御意見を基に少し検討させていただきたいと思っております。

鈴木委員

課長、ぜひともお願いします。その中で、一、二点だけで細かいところに入って終わりにしましょう。

1点は、83ページなんですが、道路施設の、交通施設の整備というところですね。確かに、自転車だ、歩行者だとありますが、今すごくカーボンニュートラルということでもって、2050年に向けていろいろ、また政府が動いていらっしゃる。その中で、ここに例えば、EVの充電環境なんていうようなこと何で書

いていないのかな。

要するに、私、気になったのは、先般、産経新聞の中に、なかなかEVの利用が進まず、充電器が初の減少になったという記事が載っていたんです。けど、どっちにしたって、これから間違いなくEVの勢いは出ますよね。

例えば、CO2のことなどいろいろ言われている流れであるならば、ここにもっと83ページとか84ページあたりに、EVに関しての環境整備についてしっかり書いておかなきゃいけないんだろうと思いますが、いかがですか。細かいことで恐縮です。

交通企画課長

今回、都市交通の目標の一つであります環境負荷の軽減に、EV関連の普及については位置づけておりますが、EV普及の具体策などは交通施策には位置づけておりません。蓄電池の導入補助などによるEVの普及に向けては、現在、改定中であり、神奈川県地球温暖化対策計画の中に、補助金等も含めて盛り込まれておりますので、この計画に基づいて、EVの普及については進められていくものと考えております。

鈴木委員

課長、そんなことを言っただけです。あなた方のこの課題の中にも、物流ということについて、CO2がすごくやっぱり多くなってきているから、何とかしなきゃならないって書いてある。そうだったら、そんな論理、通らないし、これから40年くらいになれば、間違いなく、今、薄膜太陽電池とか、知事が言って、神奈川県でやっていたけれども、最近、塗って発電するものが出てくる。間もなく、高速道路なんかも側面で、EVの充電が走りながらできて、なおかつ、道路そのもの自体が発電になるというような時代など、来ると思うよ。

そういう流れの中では、自転車まで書いてあるんだから、私も、EVについての何らかの記述は入れたほうがいいと思いますけれども、もう一度いかがですか。

交通企画課長

道路施設に、そういった充電といったものが入っていきましたら、当然そういうときの話なんですけど、この記載については関係部局と調整させていただきたいと思います。

鈴木委員

あと、もう1つは、今、課長がおっしゃった空の問題です。空の問題については、9月25日の読売新聞に、政府はヘリとかドローンと空飛ぶ車などについては、規制の法整備に入っているということを書かれています。ということは、間違いなくそういう時代が来るだろうということですので、課長、先ほどは、半分分からなかったのですが、そこのところは今後入れて書けるかどうか、そうすると、2ページ目、3ページ目も入れて、ちょっと検討願いたいというように思います。

私が、最後に課長にお願いしたいことは、狙いということについて、もっとしっかりとしたものを書いてもらいたい。少なくとも、ここに黒岩知事のメッセージか何か、1ページ目に来るんだろうけれども、前回の計画を見ると、懐

かしい松沢前知事の写真が載っかっていましたが、その後、やっぱり狙いというものについてしっかり書かないと、何のための計画なんだと。その時代はどういうものなんだということと、今、課長がおっしゃった、この中でもって書かれていることそのもの自体というのは、実はそういう何か、要するに、実施計画ではありませんよというようなことなんかについても、しっかり記述していくべきだろうと。

そうでないと、やっぱり県民の方は御覧になって、私と同じ思いになると思うよ。いつまでこの参考資料って続いているんだ、一体、何やるのって思うものになっていくと思いますが、いかがですか。

交通企画課長

先ほどと少しかぶりますが、やはり県民の皆様に分かりやすく、伝わりやすい計画にすることは、本当に大事なことだと思っています。

今回、この計画の素案を、県民意見募集に当たっては、御指摘いただいた改定の在り方といったようなところについて、意見募集の表紙等に、しっかりその趣旨をわかりやすく書くように工夫してまいります。

また、今後、委員から頂いた御意見やパブリックコメント、それから市町村との調整もまだありますので、そういったことも含めまして、計画の記載については検討させていただきたいと思います。

鈴木委員

短い質疑だけでも、なるべく凝縮して私もお話ししたつもりでいるんです。課長が御苦労されてつくれたわけですから、やっぱり多くの人に見ていただいて、分かっていたかなきゃならないだろうと。

私、いつも思いますが、やっぱりこういう計画は、なんか無責任に思うような計画になっちゃいけないと思うんです。最初に私、言った、2040年はどういうふうな時代、社会になるのかということも同じで、いきなりこの20年後の社会は、申し訳ないけれども誰も分からない。

そういう流れの中では、ある意味で、もちろんバックしたような文章にはなると思うけれども、もう少し御苦労いただいて、よりいいものにしていただくようお願い申し上げまして、質問を終わります。